京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金五拾錢▲三ヶ月前金貳圓▲六ヶ月前金▲郵税一月金拾五錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 十一月九日
發行兼編輯人 山下英爾　印刷人
京城西署西小門通
發行所 京城新報社
電話六六三

紐育恐慌の由來（續）
其の歸結は如何

如斯險惡なる形勢であるから今後は益々[illegible]する事もあらう最も恐る可きは此暗流が遠く各地方に瀰漫しはしないかと思ふ左樣なると商工業は之が爲に大打擊を蒙つて大なる反動を來たすから商工業も全く振興しなくなると云ふ樣の時期に達するなきか此等は大に注目す可き事である併し亞米利加の天然の富源は非常に洪大なもので且つ今年は農產物豐作の好報に接して居るから全然亞米利加の經濟上の根底が動搖して當分起つも這ふも出來ないと云ふ事は無からうと思はれる、

餘談

其次に此頃の新聞上に頻りに現金に對する増打と云ふ事が種々書いてあるが國立銀行の紙幣は現金に對し若干の増打をして居る元來國立銀行の紙幣と云ふものは兌換の紙幣でないから平生は無論差間ないが兌換の方法が充分でないから斯かる恐慌の際に金貨若くは政府の兌換ならば安心するが國立銀行のでは安心する事は出來ないと解して居る樣だが此は少し解釋が違つて居りはしないか一般に通貨と云へば國立銀行の通貨も含んで居て即ち通貨と小切手の總てに對して増打と思つて居る銀行は金貨を多額に拂はない手形交換所を以てしても小額の小切手は仕拂ふけれども現金の仕拂はしないと云ふのであるから小切手で仕拂つて行けば出來るとしても到底現金の仕拂は何處かで飛び廻つて持つて來なくては駄目の事である國立銀行の紙幣が通貨に對し亂暴な増打をすると云ふことはあるまい國立銀行紙幣が政府の金貨に對する増打を見れば見られん事はないが今日は到底此の増打を爲す事が出來ないものと信じられる、

北老爺嶺（山脈）大森林及雪中縱斷記（六）

黑衣仙

○紅松の柩

玆で少々譚は前に返へるが、此大森林の材木に就いて一言する必要が有る、と云ふのは外でもない、平崗附近は縱線に沿うても又橫線に沿うても共に伐木の限界で有つて、之より以南若くは以東に入込んで伐木するには、非常の艱難と不便を感ずる上に伐採は仕ても搬出に多額の費用と手數を要するので、結局は算盤に上らぬと云ふ事になる、平崗は北の方官街を去る十四里東の方朝陽鎭を去る二十里の地點に有つて前にも云つた通り此附近の材木は大凡製材に仕立てゝ北は二道關門磊子迄、東は朝陽鎭より十里內外の所迄馬車を通する所から大車の便に托して各地の市場に仕向けられる、其數量も可成大きな者である、

是等製材の用途は無論雜多であらうがその中樞に用ゆる丈でも劫々大したもので有る、尤も夫も其筈、生れる、嫁を娶る、死ぬる、人生三度の大革命の中死に對して一種の感想を有する支那人が、結婚の場合に入費を惜まぬ如く恰度死に際しても、費用を惜まず立派な柩に入つて極樂に往生したい、と云ふ考から良材を撰りに撰る譯で有る、何人も知る支那の諺に、廣東に生れ、揚州に成育ち、蘭州に死すと云ふ事があるが、其の蘭州に死ねとは必竟柩の良いのがあるからで、死ぬと極つた曉、柩なぞは何うでも可さそうなものゝ、人情は何處迄も氣が濟まぬものと見ゐる、

さて、滿洲には蘇州の如な都會も無ければ揚州の如に美人もなし、此點は極めて殺風景な所で有るが、棺丈は紅松と云ふ立派な良材が有るので、往生するには先づ心配ない、その紅松の產地と云つたら外でもない鴨綠、松花、牡丹三江の上流地方で、玆に云ふ北老爺嶺山脈の大森林からも夥しく出る、

滿洲到る所の野邊に散見する便所のかさが、いの口を塞いだ如な形の、厚板で頑丈に作つた箱、即ち紅松の柩で、野晒のまゝ中の骸が腐敗するのを待つて、再び之を正式に土葬するので、何れ貧しい者は土葬する事も出來ず、柩の朽ちるに任せて何年も野晒しに仕て有るのもあらうし、時として置所を忘れたり、他人のと取違ゐたり、又改葬方を失念しましたなど云う場合も無いではなからう、自分なども隨分と各地を旅行した者で有るが、柩が朽ちて中から骨が現はれてゐるなんど云う奴を、只の一度も見た事はないが、時偶木の生々しい所へ汚點などの附いてゐる所を見て、新佛だなと思ふと、餘り好い氣持は仕ない、初めて見た者は嘸吃驚するとで有らう、

大森林中で生れる者は少なからうが、往生する者は隨分有るものと見ゐて彼處此處に見掛ける事が折々有る、

二八魁桃

長崎縣西彼杵模範園藝場主幹　森仁八

今を去る廿五年前（明治十五年）外國船長崎に寄港したるとき船客の手荷物中竹籠入の桃果美麗滿るが如き狀景は如何にも人目を惹して同果の上にそゝげり同船に來る仲仕あり其の內に偶々二個の腐敗果有るを以て竹籠內より指頭を以て抉り出し長崎市外なる上長崎村の地に實蒔せしも一本は發芽後枯死し殘一本丈け生育し美果を産せしむるより市場に試賣せしに其價高かりし爲め是れが利益を壟斷せんと欲し其の種類の分布を防ぐか爲め看守を嚴にして一本の接穗をも分與せざりしと云ふ

明治卅二年長崎縣西彼杵郡農事巡回教師藤田伊七郎氏は該果物の有望なる事を知り是れが研究をなさん爲め接穗を需めしも應ぜざりしより止むを得ず高價を拂ふて該親木を自園に移し品質貯藏接木等に關する試驗に着手したり又長崎縣農事試驗場長吉田永二郎氏は該果實を寫生し同場內に掲げ長崎早生魁桃を紹介せり一般是れが美麗を羨望せざるはなし又果實の適期に至れば高等農學校長玉利農學博士及び農商務省園藝試驗場長恩田農學士其の他九州山陽道附近の桃栽培家に實物を贈り批評を請ひ又實地に產果接木培養等の事を試驗する事十年其の間には金錢を以て又纖故を以て分與をせまるものあれども同氏は研究中なれば今未研究のものを配布し後日に至り若しも該果が栽培の價値なきものとなりたる曉には取り返すに面倒を感ずるを以て拒絕して一穗も出さざりしと云ふ然るに今玉利博士恩田學士の審査も終り先づ價値ある種類と決定し又實地に於ても經濟的の桃なる事確定したるを以て同氏は此の際無償配布をなし天下に大に普及せしめん考へありしも多數希望者に理想の配布を全くする事能はざるを以て同氏が監督に係る部內にある長崎縣西彼杵模範園藝場主幹に讓れり玆に於て余は新種音として自身仁八の名義と長崎早生魁桃の熟し斯く早く若い麗い即ち十六娘の如き桃なりと云ふ意義を以て二八魁水蜜桃と改稱したり是れが苗圃を兵庫縣川邊郡長尾村千野忠七氏に囑托して苗木を育成し是れが配布を日本種苗株式會社よりする事とし苗木代の如きは實費としたり從來新種發賣の價格より殆んど二分の一以内を以てする事としたれども育苗費に三分の一配布費に三分の二を費して本秋より來春にかけ全國に普及の目的を以て大に國家的配布を試む是れ事實的無償配布となれり

農商務省園藝試驗場長恩田鐵彌氏の審査概評

形狀卵圓形蒂部少し凹み一方蜂起して溝をなす重量三十六匁あり色は黃色の地に霞紅を呈し肉色は蒂部及日光に面したる部紅色を呈し他は淡紅色なり蒂部に接するに從ひ淡色を呈す肉質は稍々硬し味頗る淡白にして香氣に乏し品位は天津水蜜桃より可也

盛岡高等農學校長農學博士玉利喜造氏の審査概評

全体果實の性質は天津水蜜桃に似たり熟期は「アームスデン」と同時に成熟する一點は甚だ宜敷味は酸味稍強きも可なり殊に一つの特點と云ふ可きは熟果の保存性にあり此一點よりして遠隔地より運送して比較的長く店頭に置く事出來る故商賈上利益の稀と認めらるべし先づ一種の早熟果として價値あるものなり

九州、山陽道附近の桃栽培家の審査概評

該果を鑑定するに熟季甚だ早く他の桃に先ち熟し外觀美麗形狀佳良果形大ならず少なからず先づ中の大なり味甘酸中少しく酸味を覺ゆと雖も他の早熟「アームスデン」等より久しく大に保存す故に店頭に置きて損傷寡少なる點は本種の特色なるが如し

約十ヶ年年間實地研究の成蹟

品種の良好且經濟的桃にして大に栽培に適す然れども接木の活着面白からざるを以て育苗困難なりと雖も栽培に至りては容易に生育繁茂す移植後三年確かに結果す、熟期「アームスデーン」に同時乃至早熟す豊產にして落果少しく虫害に至りては早熟種なるを以て比較的罹る事なし形狀小果に非ず大果の方にして大なるものは四五十匁のものありと雖も大低三四十匁內外なるもの多し外形及色澤は上海水蜜桃に似て內形も又上海水蜜桃に似たると雖も滋味に至りては天津に類似す是れが酸味を有する故有力なる保存主を有す柳桃栽培家の過半は天津の有益時代にして「アームスデン」上海水蜜桃金桃の如きは其の半にも滿たず蓋し故あるなり蠡には長距離の輸送困難なると又店頭に保存の出來ざる欠點よりして敗亡に歸せり然るに天津は右の欠點を補充する獨時の長所あるを以て上海水蜜桃「アームスデン」が外見及滋味等に於て有勢なれども是れが栽培區域に於て二分の一以上を占むるは當然の事にして偶然に非ざるなり是も依て是を觀るに二八魁桃は天津水蜜桃より外見よりて熟期に於て貯藏力弱き「アームスデン」と同時乃至早く熟する點よりして是れが栽培區域は天津水蜜桃の領地をそぎ又上海水蜜桃其領地を奪ふ事近き未來に於て事實となりて其の現象を見るならん

伊藤太子の談話

―七日下關春帆樓に於て―

門司特派員報

伊藤太師は往訪の記者に語つて曰く皇太子殿下には航海中太皇帝陛下と我東宮殿下の御見舞の無線電信を受けさせられて深く感謝の意を其面に湛へさせられたり航海中は風波頗る荒く乘員殆んど船暈を催さゞるもののなかりしが太子と余とは幸に少しも惱さるゝことあらざりし夜は更けて其寢室に入れり余は太子の御模樣如何にと窃かに其室を伺ひ奉りしに侍從武官長趙秉潤は殿下を離し參らせ熟睡し居たるが更らに四時頃伺ひたるに侍從武官は御側を去り殿下は眼覺められて前の無線電信を御覽ありつゝありたり談は更に進み政事方面に就き語つて曰く日本より韓國に送る巡查は頗る學殖に乏しく彼等は單に手當等を合せ四十圓にも及べる比較的多額なる給料を得んが爲め來たりし其職務に勤勉するもの少なし今後之が撰良に意を致すあらんことを望む斷髮令を出だすにつき余は法律に於て頒布するは差支なきも之を强制的に爲すは不可なりとの意見を爲し閣員に之を告げたるに閣員は之を强行し得る旨を答へたり果せるかな暴徒は此强行の爲めに蜂起せり故に余は韓國の事從來の習慣を急激に打破せんとするは拙策なるを信ず內地少壯の人々形勢急轉化を欲するも事實に於て決して其然るを得ず又內地の諸新聞が韓國の記事を報ずるを見るに誤報頗る多く特に大阪に於ける新聞を然りとす是れが爲め予の取らんとする政策も爲めに打破せられたると一再ならず或は又新內閣と現內閣子と山縣公との間に軋轢あるが如く記せるものあり而して事實全く然らず其職にある卿等少しく謹む處あらんことを望む

滿洲の大豆（下）

集散の狀況は大抵大豆の收穫の後直ちに寒氣に入るを以て內地至る處の地面氷結して尤も車行に便なり此時季に入りて大豆は大抵內地市場より輸出港に來るものにして大連の開放以前にありては營口は唯一の貿易港として殆んど獨占的位置を占め居りたり大抵遼河の氷結前は小舟に滿載し流に順つて河を下り又氷結後は車馬によりて搬來す然れども近年鐵道の開通後は頗る面目を一變して內地各市場より鐵路一馳して直ちに貿易港に達するを得るなり現在に於ては營口及び大連を以て重なる輸出點となす其最大需用地は勿論日本國にして廣東地方之に次ぎ上海地方之が後に來る間々芝罘に向け輸出せらるゝものあれども是等の大分は同港にて積替へて南清地方に轉送さるゝもの多し

之れが賣買貿易に從事するものは營口にあつて福昌合、東發順、德源和、宏發東、新順泰外數十戶にして大連にありては三井、臼井、井口、岩佐及び滿洲商業等を以て主とす又輸出商と滿洲の內地商人との仲間に立ちて賣買を斡旋するを營業となすものあり福順棧、順發棧、鴻發興等の如き是なり

直段は本年最初大連地方に於ける相場百斤に付三圓九十錢位なりしが漸次低落して今日は三圓六十錢位にして猶一層下落の模樣あり其荷造は河運するものはバラにて積込むものにして汽車にて運來するものは麻袋を用ふ

小說

紋のみだれ（二十四）

水井櫻國



請はるゝまゝ山田は上に上つて、設の蒲團の上に座ると、勇五郎は藍微塵の綿入に淺黃木綿の三尺を前結に結び、茶縞の千筋になつた袢天を被て其に控へた。

「こりやお初にお目に懸ります、私や清之助が親の勇五郎でございやすが、どうも娘が種々と御贔負に預りやして有難うございやす、實は每晩寄席の方へお出懸なさると承はつて居りますので、私も大抵每晩のやうに出懸て居りましたから、序と云つちやア相濟ませんが、其の序にでもお目に懸つてお禮を申さうと思つて居りやしたが、思つてる中に到頭お目に懸らず了ひになりやしたので、昨夕も娘と其話を致しやして、殘念な事を致たと申して居りやした。お聽の通りまだ寄席に出たのは這度が初てゞございやすので、聽れた物ぢやございやせんが、まあどうぞ末長く御贔負にして遣つて下さいやし。」

坊主頭をクルりと撫でゝ、頭を低げる。

「御挨拶で恐れ入ります、私は御覽の通りの書生ですから、迚も贔負にするの奈何するのと云ふ力はありませんが、元來義太夫が好きなもんですから、ツイ每晩出懸けるやうな始末です。しかし清之助さんは、眞箇旨いもんですから彼れだけ語れりやア、二三年も爲やうもんなら、迚も立突ものはありません。」

「なあに、貴方、まだ〳〵修業中でございやすから、聽かれたもんぢやございやせん何とか彼とか仰やつて下さるのは、お師匠のお蔭と、御贔負樣のお蔭でございやす。」

勇五郎と山田がかゝる談話の中に、清之助は家に相臨しから九谷燒の茶碗に茶を入れて、干菓子と共に前に進め

「本當に粗茶ですよ一つ召上つて下さい。」

「粗茶結構、口に慣てるから早速頂きませう。」

と、グッと喫むで下に置く。

「お菓子も斯麼上等なんですけれど、一つお撮み下さい。」

と、笑ひながら清之助が菓子器を式ばかり押進める。

「那樣不味菓子なんか召上つた事アあるまいよ。」

と、勇五郎も愛嬌を云へば

「不味所か御馳走なんですよ。お美味お菓子なら初中終召上つて居らッしやるんだもの……ね貴方、召上つた事の無い菓子を一つ召上つて下さいな。」

山田も笑ひながら

「眞箇斯う云ふ上等の菓子は久振です、我々の菓子は燒芋と相場が定つてるからね。」

と、茶の飲半を飲み了つて

「時に、いよ〳〵今夜から東橋亭と極つたさうですね。」

云へば勇五郎が

「能く御存じでございやすね。」

「なあに、今朝の新聞で見たんです。」

「なる程、なる程、私共は新聞見ても氣が注かないで居りやす、ハヽヽヽ。」

と、高笑する。

「でね、東橋亭は琴亭と違つてあゝ云ふ土地だから、何か景氣を附けやうと思つたが、どうも宜い思案も出ないので、此樣物を拵へて來たから、氣に入つたら讃やうし、氣に入らなかつたら、[illegible]に叩つて下さい。」

京城新報

商業會議所

京城商業會議所の新建築は彌竣工し昨日を以て落成式を擧行したり、余輩は秋吉會頭議員諸君及戸叶書記長に向て新建築に關する今日までの勞を謝するものなり

前に民團役所の落成を見て喜びたる余輩は今亦我會議所の落成を見て衷心喜びに堪ゑず如何となれば民團役所と會議所との發展は實に京城居留邦人の發展に外ならざればなり而れども建築物の宏大は之只に外形の發展にして余輩の切に望むところは外形に伴ひたる內容の進歩にあり

秋吉會頭其他の諸君今や健在せり余輩亦何をか患へん新築落成に對する祝辭に代へて余輩の所感を述ぶ

青木大使の召還

紛糾に紛糾を重ねたる日米問題の解決を半獨逸人なる青木周藏氏に望みしは恰も枯稽せる老婦に向て兒子を擧げんことを求めたるに等し吾外務大臣が今回同氏を召還せしは時後れたりと雖も善後策を講ずる上に於て小補なしと云ふべからず

余輩が曾てワシントンにありたるの日移民問題の序幕は開かれんとせしなり而れども當時幸にして大統領ルー氏の畏信を受けたる高平氏あり亦顧問としてスチーブンス氏ありたるを以て破裂を未然に防ぎて事無きを得たり而れどもポートマス條約後のワシントンには良く米國を理解したる高平氏を止むるか若しくは金子子爵を煩はすことを要せしなり何を苦んで骨董的なる青木子を送りたるか吾政府の不明も茲に到て極まれりと云ふべし

今や高平氏再び任に華府に就かんとすス氏又賜暇を受けて歸米す日米問題の解決期して待つべきなり余輩は以上二氏の盡力によりて所謂ペルリ以來の親交を恢復し久敷太平洋上に蟠りたる暗雲の一掃せられんことを切望に堪ゑざるなり

居留地の市區改正

僅々一年半以內に公立小學校、漢城病院、民團役所、警察署、商業會議所等は各當局諸君の盡力により新築又は改築の事成り居留地の体裁漸く備はるに到れり特に市の動脉とも見るべき道路は民團當局の盡力により改造せられ今を以て昨に比すれば所謂雲泥の差にして泥濘脚を沒する底の奇觀は見るを得ざるに到れり

而れども余輩の殘念に思ふは如何に道路が良くなりたればとて今の儘にては到底韓國首都の模範居留地としては誇るべくもあらず希くば我三浦理事官我熊谷民長奮勵一番今の時に於て如何なる方法手段を以てしても市區改正を斷行し居留地發展の基礎を定められんことを

無題

宣諭使は遂はれ、自衛團は杳たり、暴徒の勢十三道に猖獗す、本年の收穫殆んど豫算十分の五を得ること難し、斯の如くして明年の國庫を如何せんや

年に豐作あれども、百姓之を獲るに難く、家を失ひ、妻子離散す、無政府の狀態も極まれりと謂ふべし、斯くの如くして制度を改むるに汲々とし、吏員を推擧するに奔命し、同僚互に鬪ひ、官民互に怨み、尚且つ以て治平の名ありとせば天下の爲政も亦た一擧手一投足のみ、恰かも是れ破れたる草鞋を履める貴婦人を觀るの心地ぞせらる

殖民の損害回復

如何に新協約は有難しと雖も、我移住氏の損害は默看すべき事柄に非ず此損害は何くによりて回復せらるゝや

帝國旨義と人道旨義

或時は國力發展として帝國の利益を說き、或時は文明幸福を唱へて人道を表證し、或時は帝國旨義を以て侵略と心得違ひ、或時は國力進張を以て種族旨義と混す、終に此國土を過するの大方針を疑はしむるに至ることは返へす返へすも殘念なり

浦鹽電報

▲自由港閉鎖

露國港務省は極東の自由港閉鎖に關する議案を提出すべし當地商人は同議案通過すべしとて悲觀し居れり（九日發）

東京電報

▲倫貝子の謁見

清國答禮大使傅倫貝勒は本日參內せられ鳳凰間に於て　兩陛下に謁見あり終て豐明殿に於て御陪食ありたり

▲倫貝子の贊嘆

傅貝勒は入朝後最も感ぜられしは政体の正しく國民教育の普及せるにありて殊に君臣の別明かなるは貴國の特有なりと贊せられたり（以上九日午後發）

各地電報

▲賊徒を滅す　鎭嶺憲兵隊分遣所藤田軍曹以下四名は八日午前九時同所を距る三里ハクガン洞附近に於て賊五名に出會し其の四名を殪し一名を逮捕せり而て憲兵には負傷だもなしと（九日午後三時天安發）

雜報

馬關に於ける韓太子の動靜

去る七日馬關に御着あらせられたる韓國皇太子奉迎の模樣は既報の如くなるが今其御動靜を記さんに太子には七日午後五時御旅館たる春帆樓を出でさせられ伊藤太師の旅館太吉樓に至り太師を訪はせられ御慰問あり同夜山根中將渡邊山口縣知事白神下關市長等の催せる鎭海樓の招待會に臨席せられ八日午前十時同地の石炭商宮崎儀一氏邸に伊藤太師の先導に依り臨ませられたり同邸にては俄かのことゝて何の準備なかりしも光榮あることゝて宮崎氏は阪の傍に夫人は門前まで出迎はれたり室內には同家の書畫古器物等を飾付けて御覽に供しシャンペン葡萄酒を獻じ參らせたる後太子には庭園に出て植木につき伊藤太師に種々質問あり庭內を散歩し關門の風光を御賞觀の上午後二時御歸館あらせられたり尚は宮崎氏は直ちに御旅館に伺候し御禮を申上げ貴重なる物品を獻上したりと云ふ

副統監の大臣召集

曾禰統監代理は昨日午前十一時頃各大臣を統監邸に召集して訓示する處あると共に韓國の施政に就いて種々協議したりと

密使頻々

皇太子御留學に就ては雜蜚等が故に種々の風說を宮中に傳ふるものあるより太皇帝及嚴妃にありては一方ならず御焦慮遊ばされ先日御出發の際にも腹心嚴俊源に命じて閔元植夫妻幷學友を隨行せしめ在京中の出來事に就ては一々報導せしむべき旨を命じたるが尙兩三日前も季某を密偵として東京に向はしめたる由

スチーブンス氏賜暇歸米

統監府囑托韓國內閣顧問スチーブンス氏は昨日南大門發にて賜暇歸米の途に就かれたり因に同氏滯米期間は約四ヶ月間にてワシントンに於ける宿所は同市メトロポリタンクラブなりと云ふ

外交官異動說

我帝國外交官中に異動あるべしとのことは曾て聞く所なるが今傳へらるゝ所に依れば目下歸朝中なる井上大使は遠からず宮中に、又今回召還せらるゝ青木大使も歸朝の上は多分辭職することゝなるべしと又珍田外務次官は出でゝ大使となり高平氏は米國駐劄に都筑氏は獨逸駐劄になり林駐清公使は入りて外務次官となり山座政務局長は駐清公使となり安達參事官其後を襲ふに至るべしと之れと同時に大使公使中に二三の更迭あるべしと

各支廳の廢止期

昨年十二月を以て設置したる清津及鏡城支廳は先般廢廳となり清津理事をして其事務を取扱ひつゝあるが尙各地の支廳は本年十二月限り廢止し同時に理事廳をして諸般の事務を取扱はしむる筈なりと云ふ

副統監の午餐會

曾禰統監代理は來る十八日統監邸に於いて韓國元老及各大臣幷に高等官を招待して午餐會を催す由

●加藤顧問送別會　加藤顧問は不日歸朝せらるゝに就き鶴原長官鍋島書記官發起にて明後十三日天眞樓に於て送別會を催す由

暴徒京城に入る

一昨夜午後五時頃三十餘名の暴徒纛島方面より京城に浸入せりとの報軍司令部に達し岡崎師團長は直に騎兵を出して一部は斥候に當り一部は市內を警戒せしめたるが同夜十時頃西小門外、南大門停車場附近に頻々として銃聲を聞きたりとの由賊は京義線を傳つて逃走したるものゝ如しと

又々暴徒京城附近に顯はる

八日午後十一時長位里（東大門外約一里）の崔重煥方へ百六名の暴徒侵入し衣類穀類を強奪して山林へ逃げ込みたりと

賊法聖浦を襲ふ

去る七日夜十二時暴徒約百名靈光郡法聖浦を襲ひ巡査駐在所一、日本人家屋七、韓人家屋二を燒き拂ひ韓人一名を負傷せしめ茂長郡方面に引揚げたり此報により靈光よりは守備隊及び警官出張したりと

巡査奮鬪して負傷す

去る七日黃海道遂安分派所にては巡査一名巡檢二名人夫三名偵察として同郡タイセンポウへ行きしに同午前八時頃賊三十餘名突然宿舍內に闖入せり巡査は直ちに拔劍して之に應戰奮鬪したるも銃を奪はれ遂に重傷を負ひ人夫一名は賊の爲め斃れたり

小作人蜂起

平安北道定州郡海山面外十面の小作總代四百名は定州の東方約一里伊彥面附近に集會し增稅に關し其の筋に請願せんと騷擾し居るを聞知したる平壤憲兵分隊は同地警務分署員と共に出張し其の主領と認むべき麻葛終に懇諭し午後四時無事解散せしめ當日定州郡守李世鄕は定州南州道り路上に於て市場に集れる人民に對し人民請願の趣旨を其筋へ進達すると共に當地の民情をも報告し人民の爲に大に盡すべきことを訓示したりと

●暴徒巡査分派所を襲ふ　去る四日午前四時頃天安附近金浦巡査分派所に暴徒襲來し同分派所と郡衙の中間にある通用門より分派所巡查居室に向つて發射したれば同所員田中巡査は銃器を携帶したるまゝ妻及五歲以下の小兒二名を伴ひ附近一里餘の山林に避難し韓國人巡査三名の內一名はこれを急報する爲め全州に行き他は附近山林へ避難したりと而して暴徒は十七八發を發射したるのみにて其儘立去りたるが呑氣なる暴徒は分派所門內に火繩銃一挺を置き忘れ行きたり

●警備打合會　昨日午後一時より當地十三師團に於て警備に關する協議會を開けり

再び諸官廳の購買入札に就て

購買入札に夥しき弊風綿綿し諸官廳及び眞面目なる商人等の大なる迷惑を來す　實は聞くが儘に昨日の紙上に記載し警告しをきしが今又聞込む所に由ると下級官吏小商人等が結托し、ヨリ以上の卑劣行爲を以て自已の懷を肥すといふ其の事實に由ると購買入札開始の當日は夥多の商人共蝟集し來る中にも名義は相應の肩書ある商人なれども其の實營業科目は名のみにて假りに營業する者も殆んど中譯的營業に止まり全く納品の實力なきもの多し徒手空拳只歩合に轉ばんとする斯る徒もあれば殆んど雜貨的商賈を看板とし如何なる種類の購買入札にも混入來り落れば同じ谷川の水的行爲を以てする白徒もあり何れも秋波を當該小官吏に寄せ所謂水魚的以心傳心の妙術の下に（勿論中には漫然看過せる者もあらん）幾多の眞面目なる商人に對して迷惑を來すと同時に官廳其のものゝ不利益は此の上もなき事なりとは益々容易ならぬ弊風なれば斷然たる掃清策こそ此際一日も猶豫すべからざる事なり

鐵道運賃値上か

仁川會議所の會見

鐵道管理局矢崎事務所所長及小原事務官補の兩氏は一昨日仁川穎原會頭を商業會議所に訪問し長時間の會談をなしたるが其用件は鐵道運輸取扱に關する事及運賃値上等につき仁川實業家の意見を徵せん爲めならんといふ此結果或は京仁、京釜間の運賃に變更を來す事あらんと豫想せらる

安東縣出漁船の遭難

山口縣熊毛郡佐賀村中島榮吉中島安吉伊勢助左衛門山縣榮次郎南又五郎は一隻の漁船に乘り込み安東縣地方へ出漁中歸國の途次去る十一月廿七日午前八時頃木浦港を去る北西十八九浬の地點智島郡大落日島附近沖合において暴風に遭ひ船体覆沒し中島榮吉は怒濤に捲かれ遂に行衛不明となり殘る四名は僅かに身を以て免かるを得去る廿九日木浦に到着せりといふ

商業會議所新築落成式

かねて工事中なりし京城商業會議所新築落成式は昨日午前十時より開催されたるが來賓約二百餘名にして秋吉會頭は來賓に對し一場の挨拶あり次で閔農商工部次官は來賓を代表し穎原氏は仁川商業會議所を熊谷民長は京城居留民を峰岸本社長は新聞社を代表し京原一銀は京城實業家を代表して各一場の祝辭を述べ最後に戸叶書記長は來賓に向つて謝辭を述べ併せて商業會議所の覺悟及び新築に就ての經過を報告し終つて立食の饗應ありそれより井門の紅君盃盤の間に斡旋し次に數番の手踊を演じ近來の盛會なりし

●名刺交換會　在留官民間にては例年の如く日本人倶樂部に於て來る一月一日新年の名刺交換會を催す計畫あり會費は五十錢にて民團役所にて取扱ふ由なり

●緞子下賜　宮內府に於ては今回女官の服裝を洋裝に改正したるを以て之が新調の服地として太皇帝より昌德宮の女官へ緞子百八十疋を下賜されたりと云ふ

●光濟號交迭員　光濟號乘組將校機關大尉野田淸太郎氏は後任者同德永斌氏同伴理事廳民役所を訪問したるが磯貝大佐以下は來る廿七八日頃歸朝する豫定なりといふ

●宮殿伺候者　一昨日の宮殿伺候者は義親王を始め趙法相閔宮內府大臣署理李侍從院副卿等を重なるものとして男六十二女十五計七十七にして德壽宮は義親王朴承事府副總管金侍從長承寧府總官趙民熙等也

●近藤屬の視察　統監府近藤屬は群山、木浦、馬山、釜山、大邱の各理事廳營繕事務視察のため昨日出張せり

●小田屬の出張　小田屬は釜山及馬山小學校に下賜されたる御眞影を奉持して昨日同地に出張せり

輸入重要品商況（續）

仁川商業會議所調査

▲韓人向雜貨　本品は一般商況に揭げたるが如く一月中は兎角不振にして二月中又同樣の狀態を持續し三月中旬以降解氷と共に多少の荷動きあり下旬に至り漸く可なりの賣行きを見るに至れり四月中は少しく變況を呈し例年商況も沈靜するに反して三月以來先づ好況を維持し日用雜貨類は相應の賣行きを見就中小賣商人の取引は寧ろ割合ひ好況なりき五月となりては農繁季に入り一般の商況漸く沈靜の傾向を呈し諸雜貨類は例年の通り不振に陷り越へて六月となりても同樣賣行捗々しからず七八月となりて一般商況の不振に連れ賣行餘り捗々しからず九月に入り韓盆前一時賣行き引立ち市況稍賑ひしも盆後に至り再び不振の舊狀に復したり例年韓盆後より諸雜貨の賣行き季節に入ると雖も地方は暴徒騷の爲め韓商人は兎角買入扣への氣味ありて賣行頗んど捗々しからざりし

▲繩叺　本品は米穀の出廻はりの繁閑に連れて其需要に增減あるは勿論也例年八九月末より追々新穀の出廻はりあり十月以降十二月に至るまで相應の廻着あり爲めに本品の賣行きは活況を呈するを例とすれども本年は一月に至るも尙相應の出穀あり二月に入りては多少其數を減じたる傾きありと雖も尙相應の廻着を見たれば本品の賣行きは頗る好況なりし四五月中は日本向輸出は不引合にて捗々しく行はれざりしと雖も大連向白米の輸出は依然繼續せられたるのみならず六月後半期に入りては日本相場の好況に連れて本邦への輸出も亦大に振ひしより本品の賣行きも相應に行はれたり

造船會社立消へか

仁川だより

一時仁川の事業界を震憾せしめたる仁川造船會社は既に發表せる如く川口男、新井中將等の有志が發起者たるの名を並べて大々的大風呂敷を擴げたるより世人は先づ其壯擧に一驚を喫し次に我仁川に新事業の起れるを喜び各新聞又筆を揃へて歡迎の辭を呈せり、然るに吾人今數々同社の內容性質を窺ふに其旨意書及定款にて發表せるが如く確實なるものなりや否やに就き疑なき能はざる所なり。何となれば同社主唱者と稱する舟崎某が川口男と共に入仁し既に船渠建造地の踏査を了したりと傳ふるも之れに付き吾人の怪訝に堪へざる所あり何ぞや曰く、舟崎某は過日仁川新聞記者を招待したる席上某記者に對し會社の內容を語りたる所を聞くに「川口男は本會社に就ては未だ確たる所信なく新井中將亦此事業の失敗に終らんを云へり云々」と然もこは主唱者其人の口より出でたる言なり、よもや間違ひはあるまじ、豈怪むべからずや、又曰く川口男は某氏の勸めに答へて同社發起人として名前を列せられたるに勘からぬ迷惑を蒙れり云々と語られしと、益々迂散ならずや、然り吾人は同社を以て某々斗筲の輩が只會社設立の權利を獲得して以て喰物にせんが爲めに企圖せる茶番に過ぎざらん事を斷言して憚らず御聞說主唱者舟崎某は昨今歸國せんとして之れに要する或種の資金を調へんが爲め苦心中なりといふにあらずや、二百萬圓の大會社主唱者も窮狀此處に至つて聊か面喰はざるを得ざらん、吾人は元より同社の仁川に設置さるゝに對して萬腔の歡迎を表するを辭せずと雖ども彼等は唯空權利を獲得して投機的喰物に有付かんと企てたる眞相を知るに於ては默する能はず、政府が何故にかゝる曖昧なる徒輩に對して其埋築特許權を與へたるか、政府は甘々彼等の奸計に乘せられたるにあらざるか、吾人の斷言にして當らざりせば幸なり。

商業 興振會と聯合會

仁川商業興振會と聯合會との間に分裂を見るに至りたる眞相は前便所報の如し然して今其後兩派の狀況を觀るに興振會は既に機先を制して賣出しの擧に出でたるに依ると日本町は物價割高なりとの觀念より顧客の大部は競ふて興振會商店に足を運び聯合會側に於ては未だ特殊の利益を見るに至らず然して興振會は尙聯合會の催しを打毀さんが爲めに目下京城にある日露戰爭パノラマを一兩日中日本公園に移し景品券に添へて無料觀覽券を發行する事に決し目下準備中なり事態如此なるを以て聯合會と雖ども今後何等か右に對する手段に出づるならんとは何人も豫想する所なり、吾人は商業の競爭は絕對に排するものにあらざるも此分裂競爭は將來商業界の發展を粗害し又行政上にも累を及ぼす如き事なきやを憂ふるものなり。

▲治外法權▼

法權子に向て送られたる左の四首を御披露に及び候

巖の舍木父

●折にふれて

藤なみもつるのみのこるこの頃は
ただ木枯しの吹荒ふかも

●

木枯の吹荒こそなかなかに
冬のけしきを添ゆるなりけり

同

さかしらのましらがすなるわざなきは
みどころもなく廢ちにけり

よし夫

しこ草のしげりにしげる高麗の野に
鎌とる翁老にけるかな



仁川驛貨物係の不埒(一)

▲一二運送屋と結托して同業者に迫害を加ふ▲捏造記事を新聞に投稿して同業者を中傷す▲仁川運輸業妨害者▲貨物主任は池見與五郎

既に豫告せるが如く仁川驛貨物係員が一二運送屋と結托して他の同業者の業務に迫害を加へ或は賄賂によりて不公平なる執務をなして善良なる運送業者に迷惑を掛ける事を耳にせる予は先づ各運送店に内偵を入れ一方停車場貨物係につきて彼等の自白を徵し其眞相を探知したるが玆に彼等が平生不正の行爲をなし來りたる事實は細大洩さず探り得たるを以て以下順を逐ふて之れを掲載し以て彼等の頭上に三十棒を加へん即ち彼等は如何なる手段を以て自己に組せざる運送業者に迫害を加へんとするかといふに彼等は自己が貨物係の職にあるを奇貨とし貨物輸送を依賴したる運送屋に對しよし過剩の貨車あるも目下貨車無きを以て積込む能はずとて之れを拒絕し或は運送料金徵收規定に違反して不當の料金を徵し若し自已の樂籠中の運送屋なりせば規定を犯して運賃を免除し又或は運送賃の納入が僅々二三時間遲滯したりとて當該運送屋に對して有ゆる陋劣手段を施して之れを中傷し且つ現業に於て殆んど言語に絕する迄の迫害を加へて以て結托せる惡運送屋の爲めに計らんとする等聞くも苦々しき行動をなしつゝあるなり左に一々之れが例證を擧げて彼等醜類の奸策を曝かん先づ之れを記するに先達ち貨物係主任池見與五郎の略歷及仁川に於ける重なる運送業者を列記するの必要あり

▲池見與五郎の略歷 同人は元神戶驛の小荷物係りを勤め後下級助役となりかくて釜山に轉任を命ぜられ昨年當仁川驛貨物主任となりて轉任し來りたるものなり因に同氏の妻女は岡運輸部長の下婢を勤め居たるの因故あり

▲運送屋の重なるもの

浦元運送店	(組合幹事)	主任 浦元
河野同	(同)	同 河野
中村同	(同)	同 淸水
山下同	(同)	同 山下
協同組	(組合長)	同 立石
廣安號		同 橋本
平田		同 平田
中條		同 中條

さて池見貨物係主任は右諸運送店に對して如何に不公平なる取扱をなし來りたるか又其間に如何なる消息の伏在するかは次號より之れを掲げん

●降誕祭慈善 京城韓人基督敎靑年會にては來る廿五日の耶蘇降誕祭を期し漢城市内居住七十歲以上の韓人へ夫々贈物をなすと云ふ

●●●虎現出 近時猛虎時々東小門外に現はれ人畜を害すと云ふ可恐ことなり

●●●●●●貧兒寮幻燈會 熊本貧兒寮の幻燈會は一昨夜南大門通三浦茂三郎氏方にて開會したり席上永登浦より來觀の丸岡德太郞氏三圓津壽與治氏より一圓其他三浦氏及び店員一同より金若干の寄附ありたりと尚は明夜は黑田太久馬氏翌夜は大橋次郞氏其翌夜は工藤武城氏方等にて催す由なり

●某紳商の横着 今は須らく其の住所と姓名丈は特別寬大の處置を以て秘し置かんも苟も身は之れ社會に立つて相當の地位と聲望とも保ち市民の義表者として一般の敬仰を蒙り居る身分なるにも拘はらず車夫馬丁も敢て發するを屑とせざる暴言を吐き理の解らぬ屁理窟を捏ね廻はし而も恬然として何等耻づるの色なきに至つては啞然として言の出づる所を知らざるなり閑話休題サテ之が事實といふはツヽと先頃の事某は南大門外の或る廉價なる土地を購入せしに中に日本人所有の土地家屋三十坪ありしが某は亂暴にも該土地の所有主に向つて一言の挨拶もなく無斷にて木標を其の境界線に樹てたるが而も其の境界たるや自已に勝手に定めたるものにして極めて自已に取りて都合好く約一尺餘を侵略せしにぞ所有者の家妻は女ながらにも其の横暴を憤り折柄來り合はせし某に向つて大に詰る所ありしに某は横着にも「朝鮮と日本とは規則が違ふ何の構ふ事があるものか吾は斯く〳〵の肩書を具ふ何某といふもの遁げも隱れも仕ません」との意外なる返辭に家妻は呆れ果て再び返す詞もなく後刻歸り來りし夫に向つて斯く〳〵と一伍一什を語りしに夫は非常に憤慨し直ちに樹てし木標をば拔き去りしが又々四五日を經て某は圖太くも元の所に件の木標を打ちたれば此方も又もや拔き去りしに其後は何の事もなきこの話しなるがさるにても某の亂暴狼藉には只呆るゝの外なく若し將來とも斯の如き横着極まる行動に出でんには一般の見せしめの爲め大に制裁を加ふる所あるべし

●●●●●仁川の傳染病 仁川居留民は此所姑く傳染病患者の跡を絕ちたりと安堵し居たる處一昨日に至り突然三名の腸窒扶斯患者を出すに至れり即ち山口縣熊毛郡麻鄕村戶主平民くに妹當時仁川仲町三丁目江本芳二郎方淸水ふで(二十九)は一昨九日午後六時半又た奈良縣磯城郡三輪町二十九番地戶主平民龜次郎長男當時仁川仲町三丁目山口與邀(十四)及び同人方同上番地不詳戶主平民岡田精助(三十)の兩名は一昨日午前四時何れも腸窒扶斯患者なることを發見され直ちに仁川病院に收容せられたり

●仁川の野犬撲殺 仁川に於ては去る六日より野犬撲殺をなし居るが六日には十九頭、七日十三頭、九日十四頭の撲殺ありたり

無情强慾(二)

さなきだに一人旅路は物憂きものを中元ミヨは身から出し錆とはいへ重き病ひの臥床に就き藥價の料も盡き果てゝ誰便らん人もなければ治療も爲しかね此のまゝ異國の土となるかと思へば袖に涙の乾く間もなく明暮案じ煩らひ居りける折しも伯母なるクモが此の頃韓國京城に豐かに暮らし居る由風の便りに聞き傳へ果して左もありなば多少の惠も爲し呉れなんと爰に一道の光明を得たる思ひして過き越し方のあらましより不沙汰の詫も前書して今の今とて九死一生の場合なるにぞ一人の姪と思召して救護し玉はれかし御恩のほどは幾千代かけて忘れはせじと緯細々と書き送りし甲斐ありて間もなく若干の爲替金送り來りしより捨つる神あれば助くる神ありとはこのことなるべし特に伯母は鄉里に在つては鬼伯母とまで陰口するほどの邪慳の者なりしが能くも此の金送りたり世の諺に鬼の眼にも淚とやら有るに繼子はないものか左はいへ他人ならば假令百千萬金を家に積むとも一錢さへ惠み呉るゝ筈はなけれど肉身の伯母姪の間ならこそ斯くも親切になし呉れしならんが聞けば亭主があるとのこと其の御亭主も物の道理を辨へし人ならでは此の斗ひは爲すまじく未だ其の顏は見ざるとも慈悲善根の面影が眼の先に浮ぶが如く偲ばれて欣慕の情堪ねやらず其の送り越せし金にて醫療に力めたる功顯は忽ち顯はれ素の身体に復せしより是非一度伯母や義理ある其の伯父君に遭ふて積る話や禮をも述べんと多くもあらぬ手荷物を片づけて今年六月十五日に此の京城にたどりつき扨伯母の住家は何所かと尋ね探せど先きに送りし手紙の肩書の家にはあらず言語も通せぬ韓人が住ひて伯母の行先遂に判らず憐れ再び寄る邊なきさの捨小舟浮世の波に漂ふ身とはなりにけり

●南山の血の雨 一昨九日の午後五時頃南山町一丁目石工請負業野村吉三郎(三十)方へ大阪生れにて目下龍山に寄留する同石工受負人田川福次郎(二十七)が尋ね來り吉三郎が請負ひ居れる第一銀行敷地工事の幾部分を下請させよと請求し吉三郎がこれを拒みしより福次郎は最初より斯くもあらんと懷中に用意せし一尺有餘の短刀を拔き放ち己れ憎き奴この儘には置じと斬つてかゝり吉三郎の左肩先にぐつと突へ込みたれば何かは以て堪るべき吉三郎はこれを支へんとして右手指に二ヶ所を負傷した其まゝ倒れたるを吉三郎の兒分西田嘉藏が夫れと見るより己れ猪口才な何をし居るぞと福次郎の持たる短刀をもぎ取りて頭部に七ヶ所左肩部の背頸傷一ヶ所其他一ヶ所に負傷せしめ尙ほ且つ取つて押へて麻繩にて縛り上げ本町警察署へ連れ行きたり斯くて吉三郎は直ちに植村病院に入院し福次郎は警察署より漢城病院に入院せしめられたるが聞く處によれば何れも重傷なれども生命には別條なかるべしとのことなり

●誰が擲つたやら 去る九日の午後一時頃壽町三丁目の中島常八方の裏口に飯釜の出しありしを無住居韓人朴吉順といへるが盜み取り逃げる所を家人に追はれて釜を投げ捨て走り去らんとするを彌次馬ども寄り蒐つて踏む蹴る擲るして頭部に負傷せしめたり

●指環の身替り 朝に呉客を送り夕には越郎を迎ふる浮川竹の流れに身を窶す其の中に龍山は和歌の家と云ふ靑樓の明女に玉子といふ名の如きれ玉杓子ありテモマー感心のことには國元に老ひふし母への心盡しをなし居れるが此頃の寒さにもめげず現を拔かし通ひ來るは名を浮氣之進とか云ふデレ殿にて玉子が指の尖に光輝くと迄は至らずともせめては平打でも金の指環を指させて見たしとのことに大枚二十五圓を投げ出したので玉子は早速買求めてこんなに光りますと喜ぶことかと思ひしは仇にて玉子はフンゾンナ浮たことに身を窶す樣な妾しではありませんと翌朝郵便局に馳付け九州相良ならぬ福岡縣遠賀郡芦屋の里にある母の許に二十圓を送り殘りの五圓は差當り毛の切れた横刷の新調に十二錢部の花石鹼に幾何と日常品を購ひ朋輩衆との交際に乏しき居見物などで見ん事遣つてのけたれど浮氣之進殿御光來の節やサカ爲替券を指に卷いて出る譯にも行かねばとて朋輩の指環を借りて其場だけは濁しつゝあれど困つたことには來る度に同じ品の指環さして居るときもあれば變つたピカ〳〵のもあるので浮氣之進は二十五圓の金で指環の三本も買へる筈はないと不審の眉を顰むるので玉子はあり体に打明そうか如何しようかと思案の最中なりとかや

●鞄をチョロリ 日韓商工人名錄編纂の爲め目下來京中の同社員武井敬次郎氏は一昨日午後四時頃南山町森勝次氏宅に至り手提鞄を玄關に置きながら奧に通り同錄編纂のことにつき用談中何時の間にか右の鞄をチョロリしてやられたりと同鞄には人名錄編纂に關する重要書類も入れありし由にて同氏も大に困り居れりとのことなり

●名花二種 原籍千葉縣香取郡高島村大野キミ(十五)は生れは東京にて親爺芋喰て東夷くなる親爺に非ず立派な官員樣とかの事なるが藝は同地の新橋にて腕ツコキの姐さん連に仕込まれし事とて却々達者なものにて朝鮮あたりの花柳界には實以て勿体なき程、今度遂たび仔細ありて當地の花月樓より二ヶ年間三百圓の契約にて源氏名を豐子と名乘り其筋の認可を經て堂々と乘出したり、次は東京淺草區左衞門町沼田フキ(二十)なるが此迄同地千東町の或る藝者屋にて垢拔けのした東京辨に數多の嫖客を操り居りしが一ツ丸金を儲けたいといふ殊勝な量見から之も同じく花月樓より一ヶ年半三百六十圓の前借にて富子と名乘り角太鼓三味筋入の披露も賑かに何分共に御贔負にといふ寸法で……

●仁川强盗の豫審決定 去月三十日末永家に押入りたる强盗山口縣豐浦郡小串村廿二番地當時住所不定平民大工岡村儀平(二十八)は仁川理事廳に於て豫審中なりしが此程重罪公判に附せられたり

●●●●●●●●昨今兩年及平年十一月の氣候 去月中統監府觀測所に於て實測したる結果と昨年及平年十一月に於ける氣候とを對照すれば左の如し

	四〇年	三九年	平年
平均氣溫(華氏)	四二、八	三八、七	四五、三
平均最高氣溫(同上)	五〇、四	四五、七	五三、四
平均最低氣溫(同上)	三五、四	三二、四	三七、四
高極氣溫(同上)	六六、九	六七、八	七〇、〇
同上起日	一日	一四日	三五年二日
低極氣溫(同上)	二六、二	一八、一	一三、一
同上起日	三〇日	三〇日	二四年
晴天日數	二四	二六	二七
曇天日數	[illegible]	四	三
雨天日數	[illegible]	四	五
雪天日數	[illegible]	二	一
雨雪量(ミリメートル)	[illegible]	一〇	三五

即ち本年十一月は昨年に比すれば稍高溫なりしが平年に比すれば少く寒冷なりし而して天氣は昨年及平年に比して不良の方にて雨天及雪天とも昨年及平年の二倍以上なりし從つて雨雪量も昨年よりは五倍以上平年よりは約五割以上の多きに及べり